

「関西大学校友会産学サークル」の構築を目指して

連携プロデューサーの企業訪問 ―ものづくりの現場のいま―

2

何でもよく見て、変化を感じる。そして予測する。

株式会社日本スベリア

(株)日本スベリア社は、はんだ付・ろう付用金属接合材料を開発、製造販売しています。創業以来、技術・販売・宣伝という「三種の人技」の基本精神を踏まえ、「安心・信頼・誠実」をモットーにして、高度化、多様化する金属接合材料の新しいニーズに応えるものづくりを展開しています。

(株)日本スベリア社の製品・技術は、暮らしに密着した製品からハイテク製品まで様々な分野で使われています。エレクトロニクス部品に組み込まれる電子部品の実装に不可欠なはんだ付材料・機器(ソルダーリング)、および、給湯器・冷蔵庫などの配管接合のろう付材料・機器(プレijing)を提供しています。



現在、地球環境と最先端技術の融合を目指して技術開発とものづくりを推進しています。その成果の一つであるはんだから有害物質の鉛を除いた錫―銅―ニッケル+ゲルマニウム組成の鉛フリーはんだ「SN100C」は、世界23カ国地域で特許を取得し、高い接合信頼性と環境への配慮が評価され、エレクトロニクス産業分野で採用実績を伸ばしています。さらに、2011年、新合金



を用いた鉛フリーはんだの新製品を開発しました。独自開発製品である「SN100C」で培ってきた錫―銅―ニッケル系合金に銀などを添加し、金属間化合物の優れた特性をキープしつつ、用途に応じた特長を伸ばしたものです。

実用的な鉛フリーはんだは、特性、特許、コストの3条件

が製品開発の重要ポイントであると考えています。固さや粘り、融点など金属物質としての基本特性によって、はんだの品質は大きく変わります。はんだに適した材料であるか、その物性、作業性と信頼性を有しているか、が重要なことです。また、安心して使用するために、生産、流通、販売する国や地域で、特許を取得していることが大きなことです。さらに、いくら高品質でも、貴金属を多く含むものなどあまり高価な材料は、コストアップとなります。

て、海外のトップ企業との業務提携や製造・販売拠点の設置を積極的に行い、グローバルネットワークの構築を図っています。現在、海外の拠点として、販売拠点、製造拠点、駐在員事務所、OEM製造委託先、ライセンス生産先など多数の拠点を展開しています。海外進出は、「どこで作って、どこへ売る」、「現地に種を撒き、しばらくは日本から水と肥料を与える」を基に進めています。資金、人材、情報は、現地企業にとっての水と肥料になります。最終目的は、「地産地消」体制の実現を目指しています。売りっぱなしではなく、顧客に密着し、自社で手の届かないところは海外のライセンスパートナーと組み、グローバルフォロワーと確かな顧客対応をスピーディーに行っています。「地産地消」こそ、グローバルを目指す企業の存続の手段と考えています。

金属接合材料のメーカーとして、世界の産業界に活動フィールドを広げる(株)日本スベリア社は、顧客にとってのベストソリューションを追求したグローバルなものづくりのビジネスモデルを提案し続けます。

所在地：〒564-0063 吹田市江坂町1-16-15 NSビル
 代表者：代表取締役社長 西村 哲郎
 TEL：06-6380-1121
 FAX：06-6380-1262
<http://www.nihonsuperior.co.jp>